

政策評価シート（平成27年度実績評価）

◎ 政策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	4-1	政策名	地域主体のまちづくり	政策の 目指す姿	個性あふれる地域づくりを活発に行っています	政策 主管課	地域づくり課	政策主管 課長名	佐藤 多恵子
			政策の方針	これまで進めてきた住民主体の地域づくりが、より個性にあふれ活発に行われるためには、幅広い世代の市民のさらなる参画と安定した地域づくりの基盤が必要です。 そのために、老若男女多くの住民が地域づくりに参加できるよう意識の醸成を図るとともに、地域づくりの中心となるコミュニティ会議の基盤強化に向けて支援を行います。						

2 成果指標の達成状況

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	区分	H25 (基準年度)	H26	H27	H28	H35
この1年間に地域の活動に参加した市民の割合	市民の地域づくりに参加している状況を示す指標です。増加を目指します。	出典：花巻市(市民アンケート) 問：あなたは、この1年間に次のような地域活動に参加しましたか。あてはまるものをいくつか選んでください。 (1) 子供会やPTA活動 (2) 資源ごみ回収や市民一斉清掃 (3) 地域のお祭りやイベントへの参加 (4) 交通安全、消防団、防犯活動 (5) 高齢者団体活動 (6) 地域内ボランティア活動 (7) 学習活動 (8) 伝統文化保存活動 (9) その他 (10) 参加していない のうち(1)～(9)のいずれかに参加した市民の割合	%	目標値	82.0	83.0	84.0	90.0	
				実績値	81.2	91.5	92.4	-	
達成度	[達成状況に関する背景・要因]								
A	実績値は目標値を上回り、順調に伸びている。発足以来10年目を迎えたコミュニティ会議を中心とした地域づくりが順調に定着しているものと考えられる。								

3 政策に対する各施策の達成度

No.	施策名	成果指標名	H25	H26				H27			H28		前年実績との比較	達成度
			現状値	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	見込み			
1	地域づくりの参加促進	振興センター利用人数(人)	276,072	300,000	290,826	b	300,000	276,954	b	300,000		↘	B	
2	コミュニティ会議の基盤強化	地域の総課題件数のうち、地域で課題解決した件数の割合(%)	76.0	75.0	79.0	a	75.0	81.0	a	75.0		↗	A	

4 政策の総合的な評価

評価区分	政策の課題と要因
A-①	市民アンケートの結果や地域で課題解決した件数の割合が伸びてきていることから、コミュニティ会議を中心とした地域づくりが定着してきていることが伺える。その一方で、施策1において、振興センターは市民の自主的な地域活動及び地域に根ざした生涯学習の場という位置づけながらその利用人数がH26に比べH27は14,000人弱減っている。市主催事業等への参加者や学級・講座等への参加者が減ったことが要因と考えられる。H28からは振興センターへの市職員配置はなく、地域での生涯学習も地域で行うこととなったことから、より多くの方に利用していただけるよう、より一層のコミュニティ会議への支援が必要である。
順調	

成果指標達成度	A	☆		
	B			
	C			
	D			
	④	③	②	①
	政策に対する施策の達成度			

5 政策を構成する施策一覧

	施策名	地域づくりの参加促進	施策の成果指標の達成状況	H26	B	H27	B	
1	[課題]	<ul style="list-style-type: none"> 多くの住民が地域づくりに参加している姿を目指しているが、特に若い世代が地域づくりに参加することができる支援を工夫が必要である。 						
2	[今後の方向性]	<ul style="list-style-type: none"> 各コミュニティ会議において、地域の課題を把握し、課題解決に向けて話し合う場に若い世代のファシリテーターやコーディネーターが存在するように養成し、地域の方々が振興センターを中心として地域活動へ参加するよう促進していく。 人口ビジョンに定める目標とする人口・年齢構成を実現するため、今後とも移住定住支援策の充実を行う。 UIJターンや空き家バンク制度の周知に合わせ、定住促進住宅取得への補助金制度のPRをより一層図る。 						
	施策名	コミュニティ会議の基盤強化	施策の成果指標の達成状況	H26	A	H27	A	
2	[課題]	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ会議のあり方や地域づくり交付金のあり方については、引き続きコミュニティ会議を協議を行い、よりよい方向を目指していく必要がある。 コミュニティ会議発足から10年が経過したことから、今後の支援については基盤強化に主眼を置くよりは、H28以降地域主体で進めることになった生涯学習への支援などソフト面における支援が重要である。 						
	[今後の方向性]	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ会議の在り方、地域づくり交付金のあり方についてコミュニティ会議と協議した結果や検証した結果により、コミュニティ会議への支援として、よりよい地域づくりの仕組みとなるよう制度の構築を行う。 地域づくりを支援するため、地域支援室によるコミュニティ会議への一層の支援が重要である。 成果指標である「地域の総課題件数のうち、地域で課題解決した件数の割合」については、コミュニティ会議によってとらえ方が様々であることから、統一を図る必要がある。 						